

國語曰、夏之衰也、褒人之神化爲二龍、夏后布幣而策告之、卜藏其齎、及龍亡而齎在、積、韋昭曰、積、匱也、書武王有疾、周公作冊納之金滕之匱中、蓋積匱一器也、夏后謂之積、周始謂之匱、然則三代之制也、

〔日本釋名下雜器〕櫃 いつなり、入置たる物いづる也、いとひと通ず、

〔類聚名物考調度七〕櫃 ひつ

櫃には、大小有りて、その形ちも同じからず、長櫃あり、横ひつあり、足付たるもあり、韓の製なるもありて、きはめたる形はなし、今の曲物の如くにして、樺にてとぢたるも有り、と見ゆ、めんつ長鉢といふの類ひ是なり、新六帖に櫃河をよめる歌に、ひつ河の岸に匂へるかば櫻ちるこそ花のとちめなりけれ、と有るにて、えられたり、大なるは今の小袖櫃の如くにて、ながひつは今の長持なり、

〔和漢三才圖會三十二家飾具〕櫃音費 匱本字 匣音洽、和名比都 抽匣俗云引出 蓋蓋同覆也、俗云不夫

切韻云、櫃似厨向、上開闔器、

按、櫃匣總名、而有韓櫃、半櫃、長櫃俗云長持之異、今呼小者名箱、

〔雍州府志七土產〕輿略中 長櫃、小袖櫃、擔子、臺子、燭臺、水風爐之類、多於二條南北新町造之、

〔播磨風土記賀毛郡〕伎須美野、右號伎須美野者、品太天皇應之世、大伴連等請此處之時、喚國造黑

田別而問地狀、爾時對曰、縫衣如藏櫃底、故曰伎須美野、

〔日本靈異記中〕極窮女憑敬千手觀音像、願福分、以得大富緣、第卅二

海使菘女者、諾樂左京九條二坊之人也、產出九子、極窮无比、不能生活、向穗寺於千手像而願福分、一年不滿、大炊天皇仁之世、天平寶字七年癸卯冬十月十日、不慮之外、敢其妹來、以皮櫃寄姉而往之、

脚染馬屎曰、我今來故是物置也、待之不來、故往問弟、弟答不知、爰內心思、惟開櫃而見、有錢百貫、略